

お知らせ

二月例会

期日…立教 189 年 2 月 25 日
 時間…15 時 30 分受付 16 時開始
 会場…教庁 4 階講堂
 ※一月例会はございません

学生層育成者講習会

日程・会場案内

教区	期日	会場
・高知	2 月 7 日	教務支庁
・京都	2 月 14 日	府内大教会
直属		
・本愛	2 月 1 日	大教会
・川之江	2 月 10 日	大教会
・松阪	2 月 20 日	大教会
・名東	2 月 22 日	大教会
・双名島	2 月 22 日	大教会
・生野	2 月 23 日	大教会
・越乃國	2 月 23 日	大教会
・中和	2 月 24 日	大教会

報告

・此花 2 月 24 日 詰所

十二月例会

去る 12 月 25 日、教庁 4 階講堂において「12 月例会」を開催。出席は 27 教区、101 直属。

各地の動き

教区学生層育成者講習会
 ・山口 12 月 3 日 教務支庁
 越智副委員長出向

人事

《立教 188 年 12 月 25 日付》
 【直属学生担当委員長辞令交付】
 ・古川久和（朝倉・菊浩）

業務記録

《立教 188 年 12 月 16 日～189 年 1 月 15 日》

12 月 24 日 広報部部会

25 日 委員会 例会

1 月 4 日 おせち学生ひのきしん隊

（7 日）

5 日 学修部部会

8 日 委員会

高校の部研究室

教祖百四十年祭

学生おぢばがえり大会

プロジェクトチーム会議

9 日 大学の部研究室

高校卒業生コース研究室

担当者活動部部会

学生部部会

係員チーム会議

10 日 事務局連絡会

学生担当者報 2

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 中山祥吉 編集責任者 / 東井申雄

TEL 直通: 0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp

TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net

Vol. 468

立教 189 年
2026 年
1 月 25 日発行

「食わず嫌い」



私はおぢばの高
 校に進学させてい
 ただき、卒業後は

本部勤務をさせていただきまし
 た。そのため、学生生徒修養会（以
 下、学修）には一度も参加したこ
 とがなく、この学修に関わるよう
 になったのは、スタッフとしてお
 声掛けいただいたことがきっか
 けでした。

当初はビデオ係として、レンズ
 越しに学修の様子を見ていまし
 たが、学生と接するスタッフの姿
 を見て「大変そうだな」「自分
 はあの学生の雰囲気についてい
 くのは無理だ」と、勝手に決めつ
 けていました。しかし、数年後に
 カウンセラーを務めることにな
 り、実際に現場の中に身を置くよ

うになってから、その思いは大き
 く変わりました。

信仰に迷いを抱えながらも、講
 話やグループワークを通して、真
 剣に信仰と向き合おうとする学
 生の姿から、こちらが学ばされる
 ことが数多くありました。不安な
 表情で参加していた学生が、終わ
 る頃には生き生きとした表情に
 変わっていく姿を見るたびに、こ
 の行事の持つ力を実感していま
 す。終了後に「来てよかった」「も
 っと早く知っていればよかった」
 と語ってくれる学生の言葉に、私
 自身が励まされました。

現場で学生に接することは自
 分には無理だと決めつけていた
 あの頃を振り返ると、まさに「食
 わず嫌い」であったと感じます。

学生生徒修養会部 部長

幸田 真生

学修は、人生の岐路に立つ年代だ
 からこそ味わえる学びと気づき
 に満ちた場ですが、その価値は関
 わって初めて実感できるもの
 のなのだと思います。

また、学修は参加して終わりで
 はありません。ここで得た学びや
 気づきが、それぞれの立場で信仰
 を深め、教会へとつながっていく
 ものと信じています。

この春も、学修大学の部、高校
 卒業生コースが開催されます。学
 生担当者の先生方には、学生が食
 わず嫌いをせず、おぢばで学ぶこ
 の尊い場へ一歩踏み出せるよう、
 根気よくお声掛けいただき、送り
 出していただけますよう宜しくお願い
 いたします。

#328 みんなでおぢばへ

教祖140年祭 学生おぢばがえり大会

立教 189 年 3.28

「教祖百四十年祭 学生おちばがえり大会」道の学生決起の集い 開催報告

天理教学生会では、12月20日、21日の2日間に渡り、第7・8・9母屋を宿舍として「教祖百四十年祭 学生おちばがえり大会」道の学生決起の集いを開催し、総勢228名（31教区94名、31直属47名、学生スタッフ87名）の学生が参加しました。

参加した学生は、3月28日に開催される「教祖百四十年祭 学生おちばがえり大会（以下、大会）」に向けて、熱心にプログラムに取り組みました。

1日目は、大会についての理解を深めるため、これまでの歴史を振り返ったり、大会で行われるプログラムの想いを共有したりしました。また、真柱様よりメッセージを頂戴することの有難さを再確認しました。さらに、武田直也実行

委員長より大会開催に対する想いを聞き、大会のイメージを膨らませました。2日目には、東右第一棟4階講堂にて、「全体アワー」と称した交流の場を持ち、それぞれの学生会における大会に対する疑問や悩みを実行委員会や各学生会に問いかけ、より充実した大会となるよう、意見交換をしました。それぞれの学生会が、大会に向けてより一層勇み立つ時間となりました。

最後には、2日間のプログラムで感じたことを振り返り、お互いに大会への気持ちを高めました。そして、参加者全員で大会まで無事にお連れ通りいただけるようお願いいづとめをつとめ、道の学生決起の集いは幕を閉じました。

青 空

3年前、私は初めて学修のスタッフをつとめさせていただきました。

当時は仕事を優先する生活に追われ、ご用をつとめたい気持ちはありながらも一歩が踏み出せず、大教会長様にお声をかけていただいていたが、忙しさを理由に逃げていた自分がありました。この時も迷いは消えず、「最初で最後にしよう」と自分に言い聞かせるようにして参加を決めました。

迎えた学修では、先生方のお話や真剣に学ぶ学生さんの姿、スタッフの皆さんの丹精の心に触れました。その中で、お道にはこんなにも温かく、人の心を動かす力があるのだと胸を打たれ、自然と心が前を向いていくのを感じました。

その後、修養科での日々や本部スタッフとしてのご用を通して、逃げてきた私をそれでもおやさまがお手引きくださり、お膝元で育てくださっているのだと感じるようになりました。

今でも不安でいっぱいなのが正直なところですが、おやさまにお喜びいただけるよう、心を込めてご用をつとめさせていただきます。

人材育成部部員 古田修子

「立教百八十九年 おせち学生ひのきしん隊」開催報告

新春の親里で開かれた「お節会」に際し、本年も「おせち学生ひのきしん隊」を結成し、「喜びあふれる笑顔と明るい声のさわやかなおもてなし」を合言葉にひのきしんに励みました。今回のおせち学生ひのきしん隊には全国各地から189名（高校生93名、大学生96名）の学生が参加し、1月4日から7日まで第7・8・9母屋にて合宿生活を送りました。

「お節会」ではテント会場において、給仕や誘導のひのきしんをさせていただきました。寒い中ではありませんでしたが、一人でも多くの方に喜んでいただけるよう、ひのきしん打ち合わせや反省会を行うなどして、精一杯のおもてなしを心がけ、学生

たちはひのきしんを通し多くの喜びを分かち合うことができました。また、宿舍では、主に班別での時間を過ごし、ひのきしんの振り返りやゲームなどを通して、おちばで出会った仲間たちと親睦を深めました。さらに、期間中には40名（初席6名、中席34名）の学生が別席を運ばせていただきました。

学生たちは感謝の心を胸にご恩報じの気持ちをもってひのきしんに臨み、それぞれの持ち場での自主的な取り組みや人との交流を通して信仰の喜びを深く味わい、有意義な4日間を過ごしました。

参加者の声

○高校生

帰参者の方々に「ただいま」「ありがとう」「ご苦勞様です」等、言っていただけだったことがとても嬉しく、ひのきしんをさせていただいて本当にありがたかったです。

○大学生

今回初めておせちひのきしん隊に参加させていただいて、全部印象に残るほど楽しかったです。新しい出会いも含めて、自分の信仰に対する考え方とか色々プラスになるものがたくさんありました。ひのきしんも楽しくさせていただけました。

○大学生（高校生班班付）

班員が、短い時間で慣れない環境の中、ひのきしんを仲間と一緒にやろうと思ってくれるところが嬉しかったです。自分がみんなを導いたり注意したりする立場かと思っただけ、むしろ学ばされることの方が多かったです。